

TABLE FOR TWO かわら版 補足資料
～Vol. 6 ルワンダ訪問報告～

ご担当者の皆様

日頃はTFTプログラム実施のため多大なるご支援を頂戴しまして誠にありがとうございます。本資料は、かわら版だけでは伝えきれない支援先の情報を皆様にご覧いただくための補足資料です。貴組織内でのコミュニケーションや PR 等のご参考にしていただければ幸いです。今後とも引き続きのご支援、何卒よろしくお願い申し上げます。

【補足資料 Vol.6 をお送りするにあたって】

本年2月、支援先の1国であるルワンダにて視察を行って参りました。その結果に基づき「かわら版」および「補足資料」Vol.6として、現地の実情をお知らせいたします。今回はルワンダにある、マヤンゲ小学校の状況です。

ルワンダにおける給食支援 前回補足資料

- ・ 基礎体力の向上
- ・ 登校生徒の増加
- ・ 女児の就学率* 改善。伸び率約 8% (09 年)は、男女トータルの伸長率の倍。現在は地域の就学対象女児の 96%が登校するようになった (*: こと女児は通学よりも家事労働を優先させられていた経緯あり。)
- ・ 初等教育修了時の国家統一試験合格率が大幅改善 (06 年 7%; 07 年 15%; 08 年 70.4%)

【給食全般】

(進学率、就学率)

- ・ (進学率) 村の中の小学校 5 校のうち、2 校に中学校の機能が追加され、そのための校舎も建。TFT 開始前の 2005～6 年当時は中学校に通う生徒は少なかったが、最近ではそれが普通になりつつある。
- ・ (就学率) 食料が足りず給食が休みになる日が年に数日あるが、その日は生徒が来なくなってしまう。給食が登校のモチベーションになっている事を改めて確認した。

(施設と運営)

- ・ (施設) ルワンダで TFT が支援する全小学校に、熱効率の良いキッチンストーブの設置が完了。作業効率もさることながら、財源を必要とする燃料(現在は薪)の使用効率への寄与も期待される。また、薪用の木の過剰な伐採による土壌侵食の防止にもつながる。
- ・ (運営) 給食を運営する仕組み、および給食の材料供給の 2 点を将来にわたって安定させ、結果、現地において継続的に、給食の独自運用が可能となるよう、以下のステップで取り組みが行われている。



その① 学校菜園の開設と、これを利用した農業学習
収穫物が給食材料となる。また学習内容を、子どもたちを通じて各家庭へ伝えさせることにより、地元農産物全体の効率化と生産能力増大を目指す。
地域全体の農業生産性向上に貢献。

その② 学校給食は、地元農作物販売先として、ひとつの立派な「市場」であることの認知促進。最終的には、地元農家が学校給食の主材料であるメイズ(現地のとうもろこし)を栽培し、それを学校に提供するというサイクルが作り、原料の安定供給につながるようにする。



左)学校菜園の様子 <画面右奥が校舎>

耕作中の作物は、ナス・キャベツ・玉ねぎ・ニンジン・トマトなど。育てやすく保存も利き、調理の幅も広いものが、巧みに選ばれている。また、雑穀の一種アマランサス(和名:ヒユ)も栽培。カルシウム、鉄分や必須アミノ酸など、微量成分が極めて豊富とされる作物である。今後はこれら収穫物を給食に活用していく予定で、現在支給されている材料(コメ・豆・メイズ(トウモロコシ)粉の3種)による給食を、自前により質量の補填を目指す。

【学校の状況】

(英語学習の強化)

- ルワンダでは、第二外国語のフランス語から英語への移行が進んでいる。第二外国語の学習は小学校段階から導入されており、強化されていた。

※ 東アフリカ共同体は、ケニア、タンザニア、ウガンダ、ルワンダ、ブルンジの東アフリカ諸国により結成された共同体。約10年の歴史を持つ。将来の連邦制などによる地域統合と大統領選出を目指している。5カ国共同体化により、地域はアフリカ東部内陸からヴィクトリア湖はさみからインド洋沿岸に接するエリアとなり、人口合計で1億人強の規模となった。域内にヴィクトリア湖沿岸の農産物生産地や地下資源、および物流拠点として沿岸の港湾施設を擁し、今後の発展が見込まれている。



左) 学習教材

右) 米国西海岸の小学生とも文通で交流中。

【保育園への給食支援拡張(検討開始)】

(保育園の拡大)

- 2009年より、この小学校就学前の幼児教育施設が開校している。現在は、3~6歳の幼児で3年次、計約100名が通うようになった。



左) 保育園の子どもたち

緑縞の上着は制服。保育園では、授業料と制服・教材のすべてを保護者が負担している。

(保育園の目的)

- 幼児の頃から勉強に関心を持たせることで、小学校に通う子どもの数を増やすことを目的としている。また、幼児を学校に通わせ、預けられることで、母親も仕事に出られるようになるという効果もある。
- 幼児たちが勉強するのは、counting(数勘定)、アルファベット、お遊戯、簡単な英会話、お絵描き、図工、運動。親たちは、幼児が英語のフレーズを覚え、ロズさんだり、外国の曲を歌ったりすることに驚き、喜んでいる。

(給食支援拡大の検討)

- 保育園給食は現在実施されていない。
- 保育園の通学費用として、授業料年間 10,000 ルワンダフラン (約 20US ドル)、および制服と教科書に加えて同額、計 40US ドル相当の費用を、保護者は負担している。上記に加え、給食費の負担を求めたが、高すぎるとの抵抗があり、給食実施に至っていない。幼児たちは自分たちの授業が終わっても、一緒に帰る兄、姉たちが、ランチを食べ、午後の授業が終わるまで、空腹のまま学校で待っている状況である。
- 村の対象年齢の子ども全体のうち、保育園に通っているのは、現在およそ 20%。給食を配布できるようになれば 70% ぐらいまでは引き上げられる可能性があるとして、今回現地のプロジェクトリーダーからコメントを受けた。
- ランチを作るための施設は隣接する小学校にあるわけで初期投資は不要。したがって、TFT としては現地と協議の上、給食費の支援を新規に開始したいと考えている。

TABLE FOR TWO かわら版 補足資料
～日本での実施状況～

参加組織

⇒ 計 241 の組織で実施中
(2010 年 3 月 19 日現在)

内 訳	団体数	割合
1. 企業	130	54%
2. 大学	38	16%
3. 店舗、小売食品	36	15%
4. 官公庁、公的機関	23	10%
5. 病院	8	3%
6. その他	6	3%
計	241	

これまでに送った寄付金

- 2008 年末までの送金分
340,572 食分 (約 1,550 人の子供の 1 年分の学校給食)
※ 2007 年 2 月のテスト実施分から 2008 年 9 月分まで
- 2009 年末までの送金分
1,704,187 食分 (約 7,750 人の子供の 1 年分の学校給食)
※ 2008 年 10 月分から 2009 年 9 月分まで
- 第 8 回送金 2010 年 3 月 19 日
854,125 食分 (約 3,900 人の子供の 1 年分の学校給食)
※ 2009 年 10 月分から 2009 年 12 月分まで

⇒合計 2,898,884 食分 (約 13,200 人の子どもの 1 年分の学校給食)